



記事1

新春号の会報発行にあたり、沼野会長と仲副会長(会報部会主査)にお話しいただいた。



仲 今年沼野さんは、どのような新年をむかえましたでしょうか？

沼野 今年の正月は、昨年結婚した息子夫婦とゆつくり新年を祝いました。しかし、残念ながら大晦日から風邪をひいてしまい、あとは文字通り寝正月だったんですよ。

会報への期待

仲 会報部会では、毎月会報を発行していますが、沼野さんは会長として、会報はどうあるべきと

考えておられますか？

沼野 会報は、協会の活動情報を会員が共有する、協会の大変重要なインフラと思っています。当協会は多くの会員がいますが、その会員を情報でつなぐ重要な役割を今後も果たしてもらいたいと思っています。

仲 これまでの会報記事で特に印象に残ったものがありましたらお聞かせください。

沼野 月例研究会等各研究会の報告記事は参加できなかった人に大変役立つと思っています。しかし、やはり3ヶ月毎に変わるテーマに沿った会員からの投稿コラム(めだかは、異色でいつも楽しみに読んでいます。

仲 現在の会報をどう評価していますか？

沼野 大変満足しています。一方的な情報伝達だけでなく、会員が自身の考え(意見)を匿名コラムとして投稿でき、また、会報電子版では投稿コラムへ読者がコメント入力して、執筆者と読者間でコ

会員のための会報

コミュニケーションを図ることができるとも、他の団体の会報にないいい試みと思います。更に多くの会員の皆さんに目を通して欲しいですね。

仲 沼野さんから毎号「会長コラム」を寄稿いただいています。毎回どのようなことを考えておられますか？

沼野 私のコラムは協会運営の考え方や、日頃私がシステム監査に関し感じていること、考えていることを率直に書き綴っているものです。会員の皆様へ協会運営についてお知らせする義務もありますので、頑張つて書き続けていくつもりです。

システム監査の普及促進

仲 今月号からの会報テーマを「システム監査の普及促進」としましたが、このテーマについて沼野さんはどのように受け止めていますか？

沼野 システム監査の普及促進は当協会の設立目的です。年も改まり、改めて当協会の原点となるこのテーマを取上げていただいたことは大変ありがたいと思っています。

仲 協会としてのシステム監査の普及促進への取り組みについてご説明ください。

沼野 研究会等の活動の充実化を通し、システム監査の実務知識・ノウハウを蓄積し、それをセミナー、研究会等で広め、力をつけてた人をCSAとして認定し、それらの方々が活躍してその成果をまた研究会等の活動の充実化に繋げる、このサイクルをしっかりと回すことが重要と思っています。そしてそうした協会の活動、成果をしっかりと社会へ公表(アピール)していく、これが当協会のシステム監査普及促進への取り組みの基本かなと考えています。

設立25周年

仲 当協会は昭和62年12月の設立から25周年を迎えました。が……。

**沼野** 任意団体として15年、NPO化して10年です。いろいろな方々がシステム監査普及のための努力を積み重ねてきた結果ですね。現在協会は会勢の低下傾向、厳しい財政状態など課題を抱えています。先人の努力の成果を基盤に、協会活動を更に活発化し、システム監査の社会への普及を少しでも前に進めていかなければならないと思います。

**仲** 来月の2月22日に総会が予定されており、詳細はそこでお聞かせいただくことですが、25周年を迎えるので、協会の活動方針を簡単にお聞かせください。

**沼野** 昨年度は会員増強PTを中心に会勢盛返し活動に注力しましたが、本年は、皆で知恵を絞り、システム監査のノウハウ整理・公表など、システム監査の普及促進に直結する施策の展開にも一層注力したいと考えています。

**仲** システム監査の認知度がなかなか上がらないともいわれますが、沼野さんはどうみえていますか？

**沼野** 事件、事故が発生すると第三者による評価、点検を求めることが一般化し、システム監査もその一つである。第三者評価の活用は社会的に定着しています。このような状況の中、システム監査(システム監査人)の果たすべき役割は、情報社会の1層の進展と相俟って、必然的に益々大きくなり、当協会の役割、責任も大きくなると考えています。

### 協会の役割

**仲** 当協会の役割については、どう考えていますか？

**沼野** システム監査関連の団体はいろいろあります。当協会はシステム監査の実務家の集団であり、全国に7つの支部を設置し、全国をカバーする形で活動を展開している数少ない団体です。その特性を發揮し、日本にシステム監査を更に一層普及、定着させていくのが当協会の役割ではないでしょうか。

## 会員のための協会

**仲** 会員に望むことはなんですか？

**沼野** 協会の研究会、支部活動に参加、また会報への投稿などを通して協会活動に積極的に関わって相互に啓発し合い、情報を吸収して、システム監査や関連分野でそれを生かしていつて欲しいと思います。また、協会活動に関するご意見、提案もお願ひしたいと思います。

そのような会員一人ひとりの活動の積み重ねが、システム監査の社会への普及に繋がっていくものと思います。いろいろな形で、更に協会活動に積極的にご参加ください。

### 今年の抱負

**仲** 年も改まりました。今年の抱負をお聞かせください。

**沼野** 今年は現役員体制での2年目、最終年です。今年の活動方針を2月の総会で承認頂き、それに沿って活動して成果を上げ、来年度からの新役員体制へいい形で

引継げるよう、役員一同精一杯頑張りたいと思います。会員の皆様のご協力を引続きお願いいたします。

**仲** 最後になりますが、会報編集へのご注文などありましたらお聞かせください。

**沼野** いつも会報部会の皆さんにはいろいろな工夫をしていただいて興味深い記事を掲載いただいております。ありがとうございます。今後この会報のスマホでの閲覧、また電子出版も会報部会で検討していると聞いています。益々進化する会報を期待しています。



(編集担当写)

記事 2

新年の会報テーマ

今年最初の会報テーマは「システム監査の普及促進」です。

システム監査の普及促進

システム監査にかかわるすべての方々の最大の関心事であり、切望している情景でもあると考えるとテーマを選びました。

システム監査を社会一般に普及させて健全な情報化社会の発展に寄与することは、当協会の設立目的でもあります。25年前の協会設立から情報システムの環境は大きく変わり、急激な変化の渦中にありますが、システム監査の必要性・重要性は益々高まり、その役割発揮が今こそ強く求められていると思います。

まさしく、四半世紀を通じて絶え間なく変化する課題と向き合

い続けているシステム監査と言えます。この普及促進は、決して一樣でなく連綿と続く、常に新しい目標なのかも知れません。

システム監査の意義をもっと積極的にPRする必要があるというご意見や、あるいは、新しい時代の状況に沿ったシステム監査に、我々の側が適応することが求められているというご意見など、多様なご意見があると思います。

基調テーマ

新しい年に相応しいテーマと考えております。

皆様からいろいろなご意見を会報にお寄せいただきたいと願っております。

会報テーマは、3か月ごとに新しくしていますが、この「システム監査の普及促進」は、4月号までの3か月間のテーマとしたのちは今年度の「基調テーマ」として、都度のテーマとは別に1年間継続して、皆様と幅広く深く意見交換して行きたいと考えています。

皆様の職場で、そしてご友人と日常的な話題に採り上げるのはいかがでしょうか。また、協会の部会、研究会、支部などの活動の場でも火花の散るような議論をお願いいたします。



■ 会員皆様からの投稿を募集しています。いつでも募集しています。

- ・めだか(匿名)と
  - ・会員投稿(記名)があります。
- お気軽に投稿ください。

新しく会員となられた方(個人、法人)は、システム監査への想いやこれまで活動されてきた内容で、また、システム監査にとどまらず、IT化社会の健全な発展を応援できるような内容を歓迎いたします。

次の投稿用アドレスに、テキスト文章を直接送信、またはWordファイルで添付していただくだけです。  
(saieditor @ saai.jp)  
投稿用テンプレートは会報サイトからダウンロードできます。

■ 会報記事へのコメント投稿  
気に入った記事には、その記事の直下にコメントを記入できます。

参照 <http://www.skansain.com/saaj/>

■ 発行:  
NPO法人日本システム監査人協会  
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-8-8 共同ビル6F

■ ご質問・ご要望等は、次のお問い合わせフォームよりお願いします。

【お問い合わせ】  
<http://www.saaj.or.jp/foiawase/>

■ 会報は会員の期間中、登録アドレスへ配信されます。会員以外の方は、送付を希望・停止する場合、購読申請・解除フォームから手続きください。【送付申請・停止】

<http://www.skansain.com/saaj/>

Copyright(C)2013、NPO法人  
日本システム監査人協会  
掲載記事の転載は自由ですが、内容は改変せず、出典を明記していただくようお願いいたします。

■ SAAJ会報担当  
編集・仲厚吉、安部晃生、  
越野雅晴、桜井由美子、  
中山孝明、藤沢博、  
藤野明夫